

ナシの作業性に優れた「改良流線型仕立」栽培法の開発

農業研究部・果樹グループ

1. 研究の背景

果樹グループでは、早期成園化する上で有望な流線型仕立を開発しており、生産現場への導入が進められている。しかし、棚面での作業は首や肩、腕に負担がかかる重労働であることが課題であったため、作業性の向上を目的とした「改良流線型仕立」を開発した(図1、2)

2. 研究成果の内容・普及のポイント

作業時間が三本主枝と比較して29%、流線型仕立と比較して17%短縮された(図3参照)。果実品質、収量性は流線型や三本主枝と比較して同等程度であった。(表1、表2)

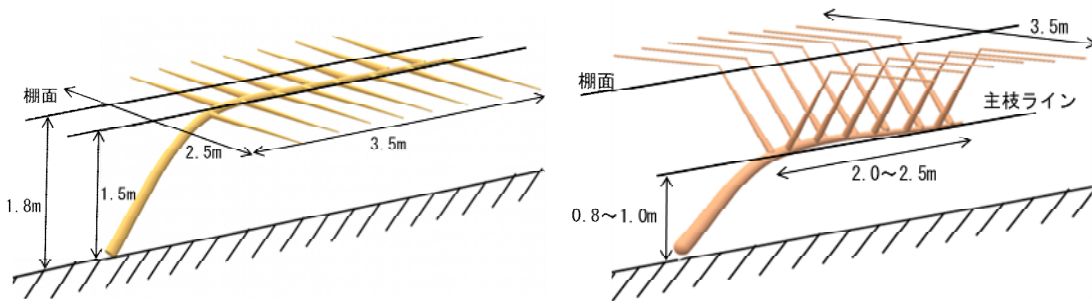


図1 流線型仕立の模式

図2 改良流線型仕立の模式

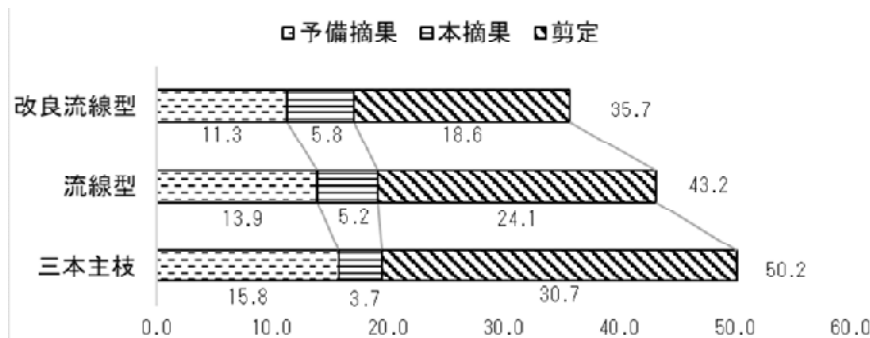


図3 ナシ「幸水」の仕立て法の違いによる収量1tあたりの作業時間(h) (R4調査)

表1 幸水の仕立法の違いによる果実品質と収量(R3年調査)

試験区	樹齢 (年)	平均果実重 (g)	Brix (%)	換算収量※ (t/10a)
改良流線型	6	308	13.5	3.2
流線型	7	305	13.3	3.4
三本主枝	17	335	13.4	2.6

※10aあたりの換算収量は、改良流線型で139本、流線型で125本、慣行型で41本植栽したものとす。

表2 幸水の仕立法の違いによる果実品質と収量(R4年調査)

試験区	樹齢 (年)	平均果実重 (g)	Brix (%)	換算収量※ (t/10a)
改良流線型	7	303	12.8	3.4
流線型	8	310	12.7	3.5
三本主枝	18	325	12.6	3.3

※10aあたりの換算収量は、改良流線型で137本、流線型で125本、三本主枝で46本植栽したものとす。

3. 期待される効果

老木化が進み改植が必要な園地や、新規造成地等への導入が期待できるが、専用の果樹棚を必要とするため、設置コスト等がかかる。

4. 担当機関連絡先

農業研究部 果樹グループ 落葉果樹チーム
TEL:0978-37-0149
住所:宇佐市大字北宇佐65